

映画祭公式サイト
www.yuki-eiga.com
Facebook
X(Twitter)
Instagramにて
情報発信中!



村ありて コメあり



4作品+野良語り

事前申込み——2,500円

当 日——3,000円

25歳以下——無 料

*当日確認できるものを提示



お申込みは
3月7日まで
Peatix で。

定員200名(先着順)

休憩時間が40分と短いため、軽食をご持参いたくとよいかと思います。ただし、会場内の飲食はできません。

チケットに関するお問い合わせはこちらへ。
tickets@yuki-eiga.com

国際有機農業 映画祭 2026

第19回

3/8日曜

日比谷図書文化館
日比谷コンベンションホール

10:30~17:00
10:15開場

10時
35分



ウナイ 透明な闇 PFAS汚染に立ち向かう

2025年／日本／106分

監督：平良いづみ／制作：GODOM沖縄

『続・水どう宝』の第2弾。生まれたばかりの息子にPFAS・有機フッ素化合物入りの水道水でつくったミルクを与えていた無念と怒りを原動力に世界各地で汚染の解決を求める立ち上がった女性（ウナイ）たちを記録。早期解決を訴える。

解説 八田純人 農民連食品分析センター所長

昼休憩(40分)
12時
30分



令和の百姓一揆

記録編

2025年／日本／15分／監督：堀切さとみ

制作：レイバーネット／協力：国際有機農業映画祭

昼休憩に
2回上映

会場内の
食事は不可

2025年3月31日東京青山公園で開催された令和の百姓一揆の記録。農家に欧米並みの所得補償と市民に安心して食事を手にできる保証を掲げ、全国からトラクター約30台、農家や市民約4500人が集まって「コメを守ろう」と声を上げた。

13時
10分



村で生きる

2025年／日本／102分

監督・制作：こばやしとなかむら

阿蘇の雄大な草原が広がる熊本県産山村。

人口1400人余りのこの村に霜降り肉だけが評価される

いまの時代に逆行して、村の草原を守る地域循環型の畜産に挑戦する親子の物語。第40回農業ジャーナリスト賞受賞作品。

解説 小林瞬、中村朱里 監督

15時
15分



野良
語り

シギタニ

鳴谷幸彦、鳴谷玉実 たましき農園

この列島を深く険しい山脈が貫く。そこに人が住み、

村をつくり、農を営み、毛細血管のようにつながり、列島のいのちを支えてきた。今その村が消え去ろうとしている。列島の深奥部の死はやがて列島全体に及ぶはずだ。新潟県上越。積雪3メートルの山の村に移住し、コメをつくり子育てしながら村のこの先に向け歩む鳴谷幸彦さん、玉実さんを迎えるとともに考えます。

15時
55分



田んぼに還る

2024年／日本／31分

監督・撮影・編集：松井至／制作：つぎの民話

舞台は福島県西会津町。放射能や農薬の問題を抱えながらも、米づくりに向き合う農家たちの姿を追う。大型化やスマート農業とは対照的な小さくも持続的な農業と村があつての田んぼ——土地と人間の深い結びつきが描かれる。

解説 松井至 監督

会場

日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール

東京都千代田区日比谷公園1-4 地下1階

アクセス

●東京メトロ丸の内線・日比谷線…「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩3分 ●東京メトロ千代田線…「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩3分 ●JR…「新橋駅」日比谷口より徒歩10分

主催

国際有機農業映画祭

協力

NPO法人日本有機農業研究会・NPO法人PARCアジア太平洋センター
NPO法人日本消費者連盟・NPO法人APLA・アジア農民交流センター

地
図

